

キウイフルーツ花腐細菌病の多発要因の検討

花腐細菌病は花、蕾、葉で発病し、花や蕾が発病すると腐敗による落蕾や受粉不良、奇形果が発生することから、果実生産に直接的な影響を及ぼす。

2021年は花腐細菌病の発生が多かったことから、これまでの知見を基に気象条件から多発要因を検討した。



花蕾の褐変



健全花

発病花

○生育ステージと発病に大きく影響する気象条件

| ステージ | 開花前日数 |
|------|--------|
| 1 | 0～9日 |
| 2 | 10～19日 |
| 3 | 20～29日 |
| 4 | 30～39日 |
| 5 | 40～49日 |
| 6 | 50～59日 |

ステージ2

降水量が多いと発病多い
最高気温が高いと発病少ない

ステージ3

気温較差が大きいと発病少ない
湿度が高いと発病が多い

ステージ5

気温が高いと発病が多い

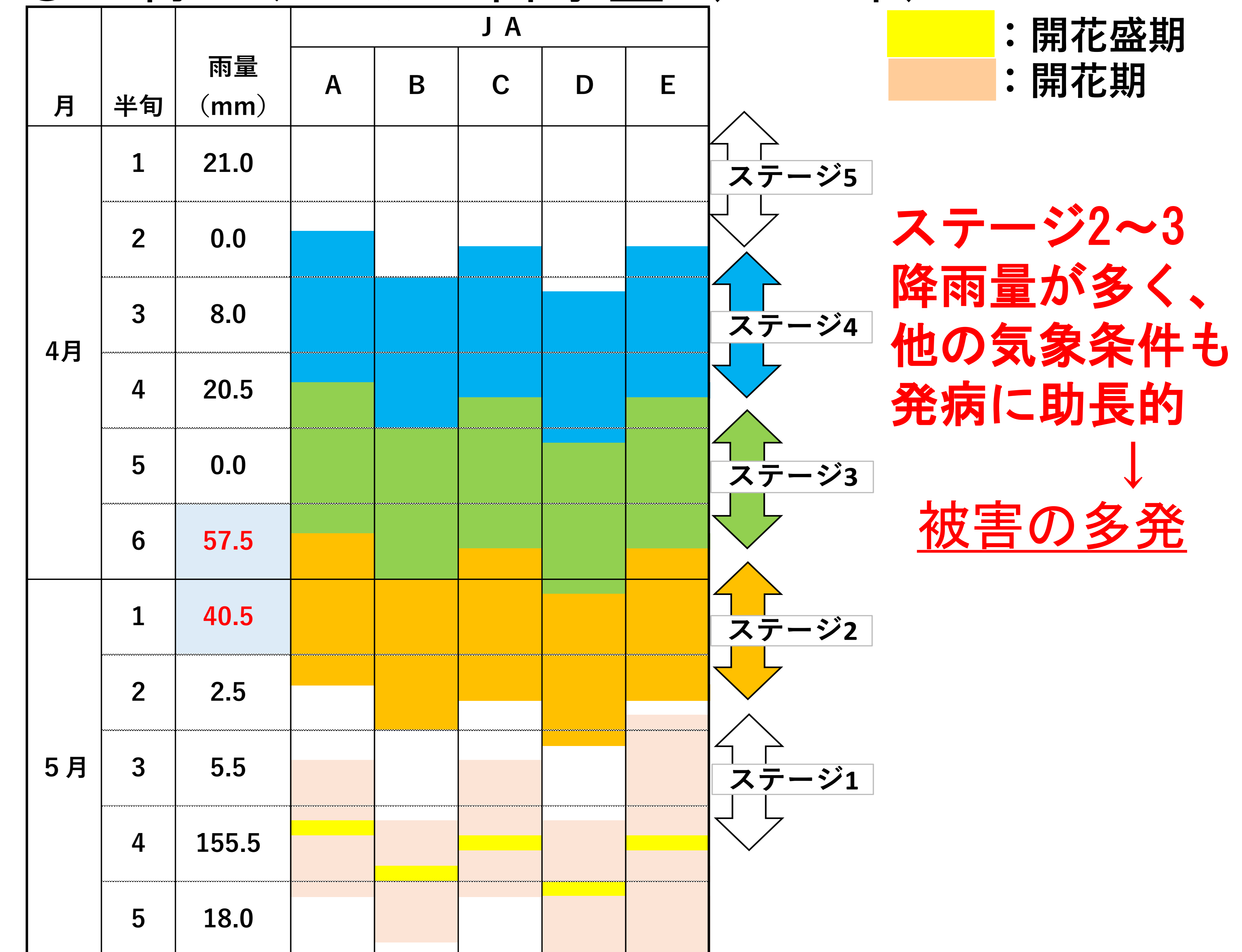
開花直前よりも花の感受性が高い開花10～29日前
(ステージ2～3)の気象による影響が大きい

○病原菌の伝染環

キウイフルーツの表面で生存している病原細菌が、花蕾に付着。

発病程度は、感染時期、病原菌の量、花蕾の発育スピードで異なる。

○生育ステージと降水量 (2021年)



降水量は果樹研究センター、開花期はJ A全農えひめ調べ

防除薬剤は銅剤や抗生物質剤であるが、気象条件によっては十分な効果を得られないこともあるため、通風や採光を良くするなどの耕種的対策を行うことが重要である。